

第一回 JUNBA アカデミアサミット宣言

米国サンフランシスコベイエリアは、産と学の両領域において、世界各国から優れた人材と技術が集まる地域であり、また世界最大規模のベンチャー投資が行われている地域でもある。

日本の国立大学は2004年4月から国立大学法人として、各大学の自律的な運営が求められ、民間的発想や学外者の参画等も制度化された。また私立及び公立大学を含め多くの大学が国際戦略に力を入れ、当地に活動拠点を置く大学が増加している。

2004年8月、本地域で活動する日本の大学拠点が集まり、情報交換を主な目的として「大学間連絡会」が発足した。そして2006年8月には、JUNBA「サンフランシスコ・ベイエリア大学間連携ネットワーク(Japanese University Network in the Bay Area)」として新たな組織体制が確立された。JUNBAは、ベイエリアに拠点を置く大学に留まらず、日本の大学の国際化、国際的人材の養成、産学連携等の諸活動への支援、日本及び米国における教育・研究の発展と産業創出への寄与などを目指している。

本日、このJUNBAの活動を継続的に且つより活発に行うことを目的として、JUNBAメンバー及び日本の大学の全学的・組織的な国際活動を推進・支援するリーダーが集まり、第1回JUNBAアカデミアサミットを開催した。参加者は日本の大学の国際化と日米の大学交流および産学官の連携等を推進するためのJUNBAの今後の行動指針について有意義な議論を行った。

JUNBAは、理事会の名において、以下の取り組みを積極的に推進することを宣言する。

1. 国際化に関する情報の共有化

各大学の個性ある国際戦略を尊重しながら互いに切磋琢磨すると共に、大学の国際化に関する有効な情報の共有を図ることで、効率的な国際化活動を支援する。

2. JUNBA学術シンポジウムの開催

日本の大学の代表的な最新の研究成果を米国へ紹介するために、JUNBA主催の学術シンポジウムを適宜開催する。

3. 各大学が米国で開催するイベントの支援

各大学が独自に開催する米国内での講演会やシンポジウム等のイベントに関し、広報や情報提供等で互いに協力する。

4. 教育に関する協力

各大学が独自に行う米国内の語学研修、インターン、大学・企業訪問等の研修に関して、情報提供や交渉等で互いに協力する。また、日本からの留学生の派遣や日本への留学勧誘等を支援する。

5. 研究に関する協力

日米に於ける最新の研究動向や、共同研究の機会を日米双方に紹介することにより、研究分野における日米連携推進を支援する。

6. 産学連携に関する協力

日本の大学の研究成果や知的財産を米国の産業界へ紹介し、また米国産業界の動向や産学連携の事例等を日本へ紹介することにより、国際産学連携の支援を行う。

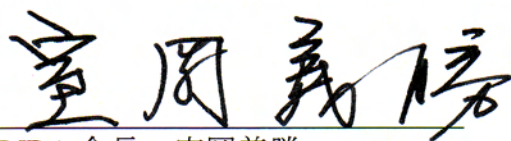
2007年1月11日

JUNBA 理事会

会長 室岡義勝

副会長 竹田誠之

理事 井手祐二、西村俊彦、長谷川泰、
松尾正人、八木 博、山崎裕子

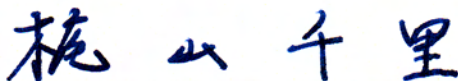


JUNBA 会長 室岡義勝

下記に示すサミットの参加者はJUNBAの上記宣言を支援する。

2007年1月11日

梶山 千里	(九州大学)
木曾 功	(日本学術振興会)
坂本 達哉	(慶應義塾大学)
庄子 哲雄	(東北大学)
BRUCE STRONACH	(横浜市立大学)
武田 洋	(法政大学)
辻 毅一郎	(大阪大学)
中島 啓幾	(早稲田大学)
矢野 利明	(鹿児島大学)



アカデミアサミット議長
梶山千里